

S1・ゲムシタビン・シスプラチン療法を受けられる方へ

科 ID: 様

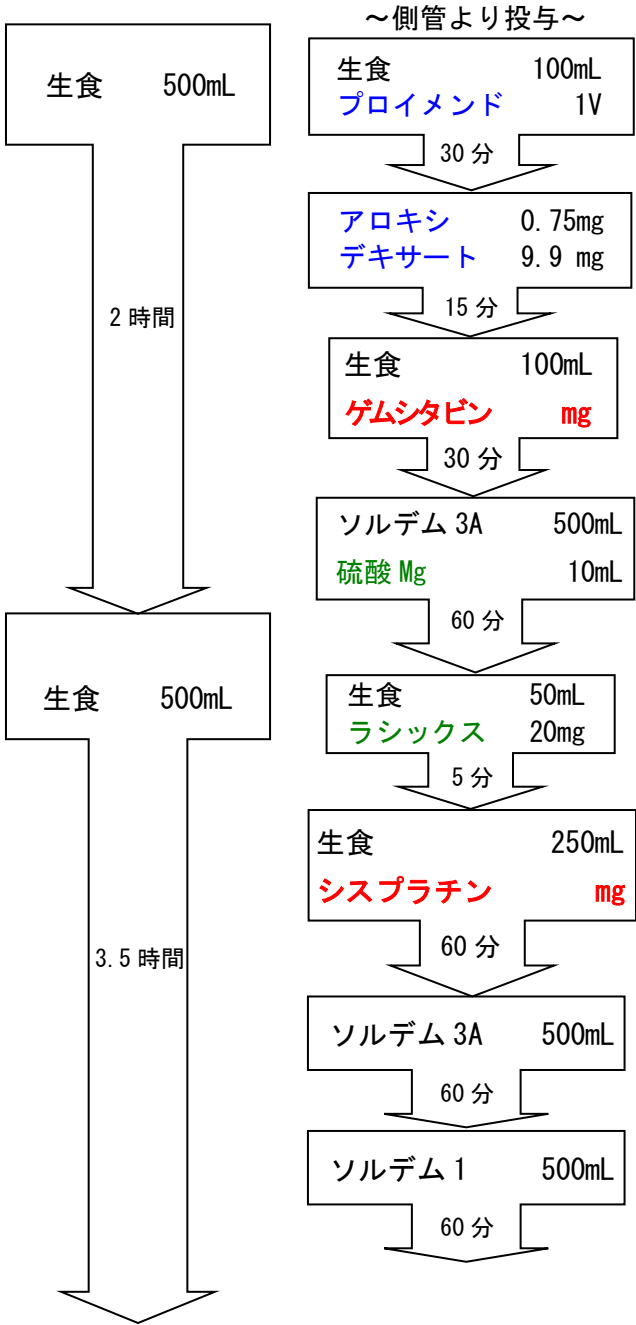
担当薬剤師

【投与スケジュール】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9-14 日目
エスワンタイホウ	夕	●	●	●	●	●	●	朝	
ゲムシタビン	○								
シスプラチン	○								

- ☆ 2週間毎に繰り返し行います。
- ☆ 検査の結果で投与スケジュールや投与量が変更になることがあります。

【点滴内容】



- プロイメンド：吐き気を抑える薬です。
- アロキシ：吐き気を抑える薬です。
- デキサート：吐き気やアレルギー症状を抑える薬です。
- 硫酸 Mg：腎臓を保護する薬です。
- ラシックス：尿を出し、抗がん剤による腎障害を防ぐ薬です。
- ゲムシタビン }：がん細胞の増殖を抑える薬です。
シスプラチン }



【内服薬について】

エスワнтаイホウ配合 OD錠：がん細胞の増殖を抑える薬です。

点滴日から7日間内服・7日間休薬します。

注意) 必ず指示された期間だけ内服しましょう！

飲めなかった薬は病院に持ってきてきましょう。



☐ エスワнтаイホウ配合 OD錠 T20 1日2回 朝夕食後 1回 _____錠

☐ エスワнтаイホウ配合 OD錠 T25 1日2回 朝夕食後 1回 _____錠



【主な副作用と対策】

アナフィラキシー様症状：お薬を投与することで、アレルギーに似た症状が発現することがあります。息がしにくい、胸が締め付けられる、といった症状がある場合にはすぐに知らせてください。

血管外漏出：針の刺入部の皮膚が赤くなる・腫れる・痛い・熱っぽい・かゆみが出るなどの症状が現れる場合があります。異常を感じたらすぐに知らせてください。

白血球減少：投与後7～14日頃に最も減少するといわれています。
白血球が少なくなると、病原菌に対する体の抵抗力が弱くなり、
風邪などの感染症を起こしやすくなりますので、
うがい・手洗い・マスクといった感染予防を心がけましょう。



赤血球減少：血液の赤い成分が減少することで、めまいやふらつき、疲れやすくなるといった副作用が起こることがあります。十分な休息をとりましょう。

血小板減少：投与後7～21日頃に最も減少するといわれています。原因不明のあざ・鼻血・歯茎からの出血・頭痛などが起こることがあります。出血しやすくなりますので、怪我や転倒には注意してください。

食欲不振、悪心・嘔吐：エスワнтаイホウ内服中、点滴投与後～2-3日ほど現れることがあります。
あらかじめ吐き気止めを投与していますが、他の薬もありますので辛い時は
申し出てください。また食事はにょいの少ないもの・冷たいもの・食べられるものを少しずつ摂取するようにしましょう。



脱毛：投与後2～3週間経つと抜け始めます。(10%程度)
治療終了後6ヶ月ほどで生えそろうてきます。

便秘：水分を摂取したり、お腹のマッサージをしましょう。下剤や便を軟らかくする薬も使います。

下痢：排便回数が増えたり、下痢になったりすることがあります。

下痢をしている間は脱水にならないように水分摂取をしましょう。

症状によっては下痢止めを使用することがあります。

また、1日に4回以上の下痢（水様便・泥状便）や血の混じった便が出るときには連絡してください。



難聴・耳鳴り：高音域の声や音が聞こえにくかったり、耳鳴りがすることがあります。

悪化していくようでしたらお知らせください。

しゃっくり：しゃっくりが出ることがあります。

ひどく続いて辛いときにはお薬を使うこともありますので、相談してください。

口内炎：食後に歯磨きをするなど、口の中は清潔に保っておきましょう。

味覚障害：食べ物の味が変わって感じるがあります。

治療が終了すれば徐々に治ります。



色素沈着・爪の変形：皮膚や爪の色が着色したり、爪が変形してしまうことがあります。

長い時間直射日光にあたらないようにしましょう。

治療が終了すれば徐々に元に戻ります。

疲労感・全身倦怠感：全身がだるくなったり、力が抜けたような感じになることがあります。

眠気・傾眠：急に眠くなることがあります。車の運転など注意しましょう。

発疹：皮膚が赤くなったり、痒みが出ることがあります。ひどい場合には知らせてください。

流涙：薬の影響で、無意識に涙が出ることがあります。



腎・肝障害：お薬によって腎臓や肝臓に影響が出る場合があります。

間質性肺炎：非常に稀ですが、薬の影響で肺炎が起こることがあります。

咳・発熱・息切れといった症状が続くようでしたらお知らせください。



★点滴をした翌日・翌々日には水分（水・白湯・お茶など）を1日1L以上摂りましょう。



【その他の内服薬について】

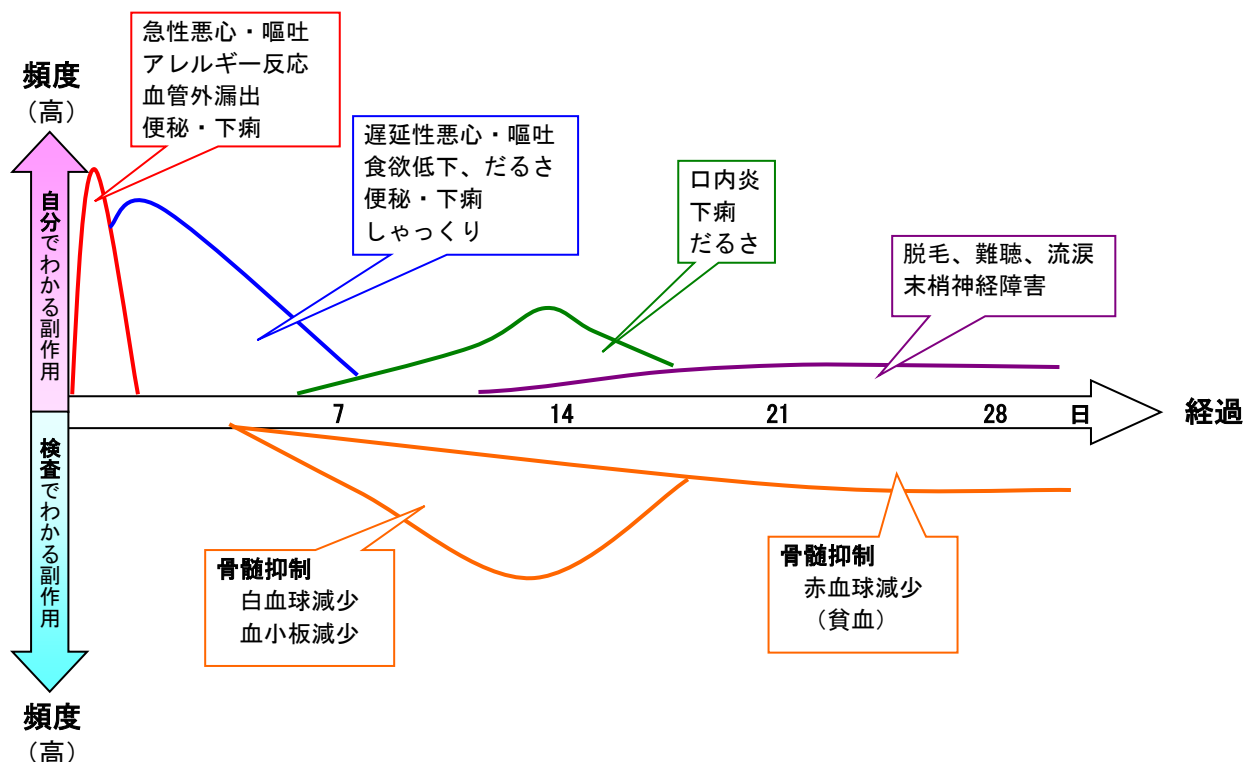
* この治療を受けられる方には、吐き気止めとして内服薬が処方されます。

□ デカドロン錠 4mg：1日2回 1回1錠 朝・昼食後

シスプラチンを投与した翌日から3日間内服



主な副作用の発現時期と程度のイメージ



【日常生活で注意していただきたいこと】

- ① 抗がん薬は投与後しばらくの間、尿や便に残ります。抗がん薬投与後2日間(48時間)は、トイレのふたを閉めて水を2回流しましょう。男性の方は尿の飛び散りを防ぐために座って排尿しましょう。
- ② ご家族が吐物や排泄物を処理する場合には必ず手袋をしましょう。汚染したゴミはビニール袋に入れて口元をしっかりと閉じてから廃棄してください。
- ③ 経口抗がん薬の内服はできる限り患者さん自身で行いましょう。経口抗がん薬を素手で触った後には、内服後すぐに石けんと流水で手を洗いましょう。



副作用の全てが現れるわけではありません。

また、これら以外の副作用が現れる場合もあります。

気になる症状がありましたら必ず医師・薬剤師・看護師にご相談ください。

この説明書はかかりつけ医やかかりつけ薬局薬剤師にもお見せください。



お薬に関する相談先

北信総合病院 (代表)0269-22-2151
薬剤部 医薬品情報管理室 内線 2530

